

第1章 基本的な考え方

検討経緯

幸田町郷土資料館の現状と課題

利便性・快適性 老朽化／バリアフリー対応不足／トイレが男女共用／履き替えが必要等	資料の保存環境 温湿度管理等が難しい／町の歴史資料の散逸・消失リスクが高い 等	展示・教育普及 他館から資料を借りにくい／展示・教育活動の空間が不足 等
--	---	--

上位計画

- 町の総合計画において、文化施設の充実化が主要な取組の一つとして位置付けられています。
- 町の総合戦略に、町立博物館建設の検討推進が示されています。

整備の沿革

1976年度	資料館開館
2021年度～	委員会設置
2023年度	基本構想
2024年度	基本計画

▶ **老朽化した郷土資料館に替わる新博物館を整備します**

基本理念と事業活動の基本的な考え方

基本理念

幸田の歴史と今を再発見し、みんなが幸せになる未来を探求する

「ともに未来を創造するディスカバリー・ミュージアム」として、みんなで幸田町の魅力を発見し、交流し、ともに成長し、次世代へと守り・伝える機会を創出することで、幸田町への愛着と誇りを高め、幸田町の未来を担う人づくり、地域づくり、そして幸田町の魅力向上に貢献します。

事業活動の基本的な考え方

- 基本理念を実現するため、下記を事業活動の基本的な考え方として位置づけます。

みんなで発見 だれもが気軽に参画し、楽しみながら様々な発見に出会える、利用者目線を重視した活動	みんなが交流 親子連れ、子どもたち、高齢者、町民団体、研究機関、企業等が交流できる活動	ともに成長 利用者と新博物館がともに成長し、また、幸田町の魅力をさらに高める活動
---	---	--

第2章 事業活動計画

博物館の基盤となる活動

収集・保存

- 幸田町の姿を理解し、また地域の大事な資料の散逸を防ぐために、三河地域の民俗、歴史、美術・工芸、考古、自然、産業の資料を収集します。
- コレクション・ポリシーを策定し、寄贈、寄託、購入、採集、作成等により収集します。
- 国宝から着ぐるみまで資料特性に配慮した保存・管理を行うため、適切な環境と体制を構築します。

調査・研究

- 三河地域の自然・歴史・文化等の各分野、また博物館活動や運営のあり方も調査・研究します。
- 研究成果等の活用のため、デジタルアーカイブを構築します。

教育

- 利用者が知的好奇心を育める生涯学習の拠点として、人々の自発的な学習を支援します。
- 特に学校団体、子どもやその家族を重視して活動を展開します。学校と連携し、小中学校および高校の学習を積極的に支援します。

展示

- 子どもから大人まで、だれもが楽しめる展示を行います。
- 常設展示と企画展示を行います。常設展示は、幸田町への愛着と誇りを醸成するものとしします。

広く親しまれ愛されるための活動

普及

- 開館前から継続的に、情報発信や参加型体験の提供、にぎわいを生むイベント等を行い、新博物館の存在をひろく伝え、より良い関係性を構築・維持します。
- 新博物館を拠点に、子どもから大人まで参加できる組織を立ち上げ、幸田町に関わる多様な「文化」を核に、町の魅力向上に貢献する活動を展開します。

利用者サービス

- ショップを設け、オリジナルグッズや飲食料品を販売します。混雑予想時はマルシェ等を行います。
- ギャラリー機能を設け、図書館内のギャラリーと連携して運用します。
- エントランス等に学習等に使える座席を設けます。

▼ 子どもから大人まで参加できる組織のイメージ

新博物館 ↔ 参加型組織 (仮称) ディスカバリー・クラブ ↔ 多様な主体 (商工団体／企業・職人／生産者／大学・研究機関等)

「文化※」を核とした多様な活動

農家体験・商品開発／工場見学・職人体験／発掘体験・史跡ツアー／標本づくり・自然観察等

※「文化」：農業、工業、自然、歴史・考古等を含む、幸田町に関わる多様な文化

第3章 展示計画

常設展示

コンセプト

幸田の地と時と絆の物語を探り、伝える

構成

- 導入、概覧、詳覧の展示を組み合わせ、進むにつれてより深く理解できる構成とします。

企画展示

- 最新研究成果や特定テーマの企画展示を行い、来館者が多様な文化に触れる機会を創出します。

企画展示の展開イメージ例

三河最大の水源は幸田町にあった！／変わり続けるベッドルーム／「特撮とロケのまち」幸田町 等

展示のストーリー

エントランス等

1. 導入展示

- 来館者の関心や好奇心のスイッチを入れ、段階的に理解するきっかけとなる、遊びながら学べる展示

▲ 菱池、青塚古墳、深溝松平家等のトピックを、体を動かして楽しみながら学べる

常設展示室

2. 概覧展示

- 幸田町域で生きてきた人々と自然の関わりや営みを躍動的に伝える、菱池を核とした映像展示

幸田町の変遷を視覚的にわかりやすく伝える

3. 詳覧展示

- 「本物」の資料展示や体験を通して、土地の成立から現在まで、町の歴史・文化を詳細に伝える展示
- 青塚古墳、三河武士、深溝松平家、菱池の干拓、三河地震等を詳細に伝える展示

▲ 実物資料に加え、模型やレプリカ等も使い、体験を通じたより深い理解を促す

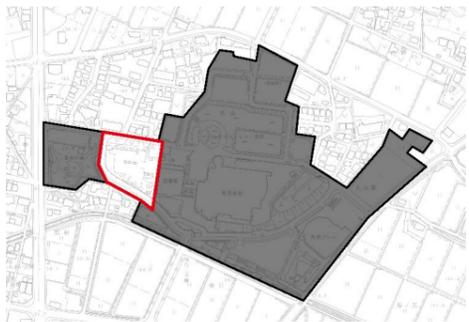
企画展示室

第4章 施設整備計画

敷地概要と配置

配置計画エリア

- 新博物館は、ハッピーネス・ヒル・幸田に整備します。
- 安全性や周辺地域への配慮等を勘案し、下図赤枠内を配置計画エリアとします。



現時点での施設配置イメージ

- 博物館、屋外広場、駐車場を整備します。



諸室構成と配置

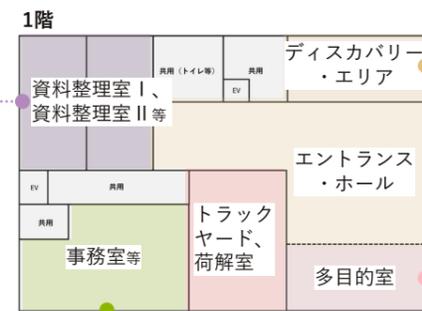
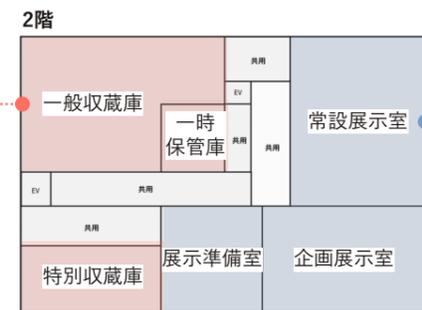
- 新博物館の延床面積の目安を2,500㎡とします。事業活動計画を実現するために必要と考えられる、諸室と想定規模から、下記の平面計画が考えられます。
※具体的な平面計画は基本設計における詳細な協議等をふまえ、決定します

収蔵・保存部門（約550㎡）

- 特別収蔵庫：美術工芸品、古文書等の資料を収蔵。温湿度管理を行う
- 一般収蔵庫：民俗資料、考古資料、自然資料等を収蔵し、温度管理空調および除湿を行う。来館者が様子を見学できる空間
- 一時保管庫：他館からの借用資料の一時保管等を行う
- 荷解室：搬入資料の開梱作業や燻蒸作業等を行う
- 搬入口・トラックヤード：閉鎖空間で資料の搬入・搬出を行う

調査・研究部門（約200㎡）

- 資料整理室Ⅰ：美術工芸品、古文書、民俗資料等の資料整理や修復作業等を行う
- 資料整理室Ⅱ（埋蔵文化財センター）：考古資料、自然資料等の資料整理や修復作業等を行う。来館者が作業を見学できる空間
- 写場：資料の撮影を行う
- 書庫：調査研究に必要な書籍等を保管する



管理運営部門（約200㎡）

- 事務室
- 館長応接室
- ボランティア・ルーム

展示部門（約550㎡）

- 常設展示室：概覧展示、詳覧展示を行う
- 企画展示室
- 展示準備室

交流部門（約300㎡）

- エントランス・ホール：総合案内、ガイダンス・コーナー、ミュージアム・ショップ、ライブラリー・コーナー、ギャラリー展示に活用できるエリア等を設ける
- ディスカバリー・エリア：導入展示を行う

教育部門（約100㎡）

- 多目的室：教育プログラム、講座、講演、学校団体の昼食場所や休憩、学習、利用者による発表等、多目的に活用する。40名程度が利用できる空間

共用部（約600㎡）

- 来館者用トイレ（男・女・多目的）、授乳室、職員用トイレ、廊下、エレベーター、階段、電気・機械室、警備室、倉庫等

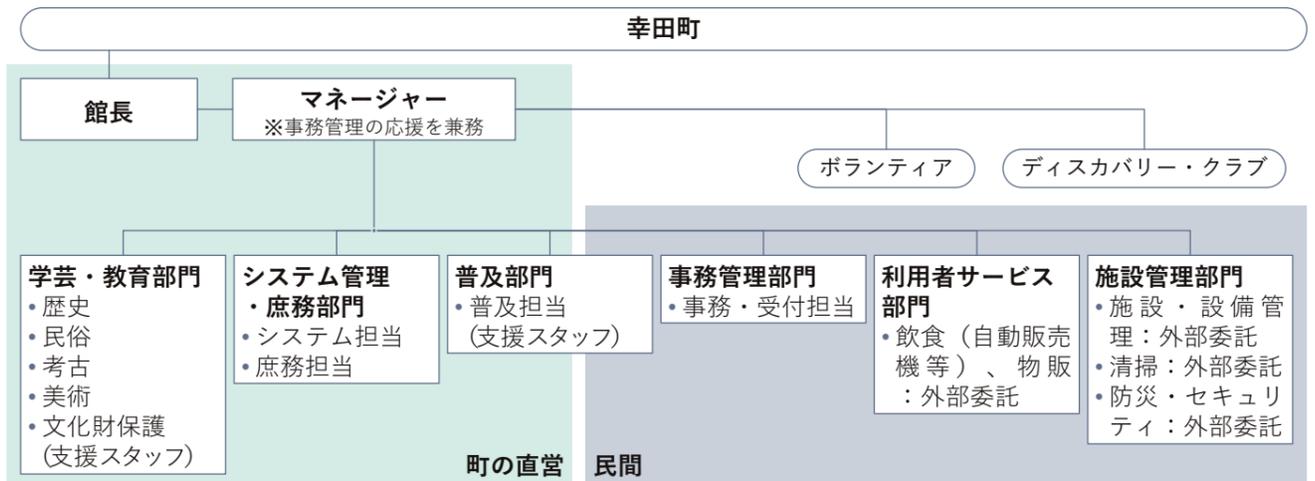
第5章 管理運営計画

管理運営体制

整備および管理運営方式

- 「直営・指定管理者制度併用」方式で管理運営を行います。地域の博物館として継続的な資料・知識を蓄積する必要がある博物館の基幹的な業務（収集・保存、調査・研究、展示、教育）は町直営で行い、他の業務を指定管理者に委託します。

管理運営体制のイメージ図



利用者とともに成長する運営の仕組み

ボランティア

- 利用者の生きがい創出や次世代育成に寄与するため、新博物館の活動を支えるボランティア制度を設け、採用・育成に積極的に取り組みます。

（仮称）ディスカバリー・クラブ

- 利用者の幸田町への愛着と誇りを育み、また新博物館の継続的な利用を促すため、新博物館の理念や活動に賛同する個人・法人を募り、組織化を図ります。

開館形態

開館日時

休館日	水曜日、展示替え日等
開館時間	展示室 9:00～17:00
	展示室以外 9:00～19:00

利用料

- 観覧は原則、有料とします。※町民、小中学生、障がい者には特別な措置を講じます
- 無料利用できるスペースを確保します。

第6章 事業スケジュール

整備スケジュール

- 本計画の内容をもとに建築及び展示に係る事業を推進します。

